

保護者の皆さまへ

吹田市立千里第一小学校
校長 岡本 公助

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、算数に限られております。測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、得られた課題をもとに、よりきめ細やかな指導を進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査の分析

◆国語<概要>

- ・「書くこと」について、全国値と比べ課題がある。
- ・「話すこと・聞くこと」、「読むこと」は全国値と比べてほぼ同じである。
- ・学力の分布に関しては、平均正答数は全国値と比べてほぼ同じである。

◆国語<各領域における成果と課題>

【話すこと・聞くこと】

- ・「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができる」は全国値とほぼ同じである。
- ・「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる」ことに課題がある。

【書くこと】

- ・「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」ことに課題がある。

【読むこと】

- ・「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる」は全国値とほぼ同じである。
- ・「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができる」ことに課題がある。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

- ・「日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる」は全国値を上回っている。
- ・「学年別漢字配当に示されている漢字を文の中で正しく使う」ことに課題がある。

【情報の扱い方に関する事項】

- ・「情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる」ことに課題がある。

◆国語における今後の改善点

- ・【話すこと・聞くこと】については、授業の中で、伝えたいことを明確にして、構成をじっくり考える時間を設けることで力を付けていく。また、「話すこと」「聞くこと」の視点を共有し、その柱をもとに自分で学習を調整することができるよう指導していく。
- ・【書くこと】については、書く目的を明確にして書く時間や、書いた文章を推敲する時間を設けることで力を付けていく。また、各教科の授業で考えや理由や振り返りを書くなどして、書く経験を増やしていく。
- ・【読むこと】については、文学的な文章や説明的な文章を主な題材として、中心となる語や文を見つける時間やそれらをまとめて要約する時間を学習計画に位置付けて読む力を付けていく。また、本校の研究におけるユニバーサルデザイン三つの視点「視覚化」「共有化」「焦点化」の視点を学習に取り入れることで児童が主体的に学習を進めることができるよう指導していく。
- ・【言葉の特徴や使い方に関する事項】については、学習した漢字を文の中で正しく使えるように、宿題やモジュール学習を中心として、継続して指導していく。主語と述語の使い方については、国語授業全般で主語や述語を明確にして、文を書いたり、考えを話したりする時間を設定することで力を付けていく。
- ・【情報の扱い方に関する事項】については、文中にある「こそあど言葉」などの指示語に着目して示しているものはないかを明確にしたり、説明的な文章で出てくる図や表が叙述とどのようにつながっているかを読み取ったりする中で力を付けていく。また、言葉に対する対象が何なのか文学教材や説明的な文章の学習の中で共有し、その効果について話し合うなどの機会を取り入れていく。

◆算数<概要>

- ・「変化と関係」の領域は全国値をやや上回っている。
- ・「図形」「数と計算」「データの活用」の領域は全国と比べて課題がある。
- ・学力の分布に関しては、平均正答数は全国値と比べてほぼ同じである。

◆算数<各領域における成果と課題>

【数と計算】

- ・「以上の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができる」は、全国値を上回っている。
- ・「示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを指揮や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかを判断できる」に課題がある。

【図形】

- ・「正三角形の意味や性質について理解している」は全国値と比べてほぼ同じである。
- ・「台形の意味や性質について理解している」に課題がある。

【変化と関係】

- ・「百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる」は、全国値を上回っている。
- ・「伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができる」は、全国値をやや上回っている。
- ・「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えや式や言葉を用いて記述できる」に課題がある。

【データの活用】

- ・「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と数を用いて記述できる」に課題がある。

◆算数科における今後の改善点

・【数と計算】では、基準量と比較量を正確に捉えるために、問題文だけで量を判断するのではなく、図と関連させることで量をイメージするなどの工夫をしていく。また、既習事項をもとに学習することを意識し、学んできたことと新しく学ぶ学習事項を関連付けて学習ができるよう指導していく。

・【図形】では、辺の長さや、角の大きさなどに着目してどのような見方で考えたかを共有したり、解き方を交流したりするなど、図形に対する見方・考え方と関連付けて考えさせるなどの工夫をしていく。また、イメージをすることが困難な児童がいることを想定し、ICT 機器を活用した授業作りを行っていく。

・【変化と関係】では【数と計算】の割合の指導と同様に、問題文から数値を見取り、公式に当てはめるだけでなく、図と関連させるなどの工夫が必要であると考え。問題を読み、図などに表現して考えることができるよう工夫していく。また、単元の初めの導入や学習事項を意図的に日常生活と結びつけるなどの工夫を行い、学習と生活を結びつけることができるよう指導を行っていく。

・【データの活用】では、適切なデータを選ぶだけでなく、その理由まで明確にしていくことが大切であると考え。データは自分の考えと関連付けて考えさせるなどの工夫をしていく。また、授業の中で、児童の生活と関わりのあるデータを提示するなど、主体的に学習を進めることができるよう指導を行っていく。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

・基本的な生活習慣（朝食・睡眠・起床時刻）については、全国値とほぼ同じ。

・「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値を下回っている。

・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値を下回っている。

・「学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」や「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値を下回っている。

【規範意識・自己有用感について】

・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」や「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値を上回っている。

・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合は全国値とほぼ同じ。

・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値をやや下回っている。

・「自分には、よいところがあると思いますか」や「将来の夢や目標を持っていますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値を下回っている。

【地域や社会に関わる活動の状況について】

・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」や「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値を下回っている。

【学習に対する興味・関心について】

・「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値を上回っている。

・「国語の勉強は好きですか」や「国語の勉強は大切だと思いますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合

合が全国値を下回っている。

・「算数の勉強は好きですか」、「算数の勉強は大切だと思いますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値を下回っている。

3. 今後の取り組みと改善

本校では、研究テーマを「主体的に学び合い、高め合う児童の育成」～ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり～と設定し、文学的な教材における児童の汎用的な読解力の習得を目指しております。そのために、全学年で文学的な文章における指導内容を整理し、ユニバーサルデザインの視点を活用し、言葉や文のどこに目を向けてどのように考えたら良いかということを中心に授業を進めております。また、文学的な文章を通して学習した読解の方法や考え方を、次に出会う文学的な文章を読み進める際に活用できる汎用的な読解力の習得を目指して授業を進めています。研究テーマに沿った授業改善を進めて、今回の調査で読むことの課題であった「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができる」に対して、ユニバーサルデザインの視点を活用して、文と文のつながりや文と対象物の関係性を読み取る力を伸ばしていきます。

「教科に関する調査」において、算数では、全国値とほぼ同じでした。しかし、「変化と関係」の領域においては全国を上回る結果であるなど、これまでに習熟度別指導を実施してきたことの成果が表れていると考えております。今後も、習熟度別少人数指導の充実やICTを効果的に取り入れるなど、指導方法の工夫改善に努めていきます。

引き続き、家庭や地域の協力を得て、最後まであきらめず、他人を尊重する気持ちや態度を育めるような学校づくりを目指してまいります。よろしくお願いいたします。